



大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第137号

2026. 2. 9

教師になる！

— 大谷大学から教育現場へ —

大谷大学 教職支援センター長 林 正幸

あなたは将来どんな先生になろうと思っていますか。どんな先生を目指していますか。今までに出会った多くの先生を通して、自分もそのような先生になりたい、子どもたちと共に過ごし、その子どもたちをこのように育てたいという思いを持っていることと思います。

「どうして教師になりたいと思いましたか。」「どんな教師になっていきたいと思っていますか」教員採用試験でもよく聞かれる質問の一つです。

教師になりたいと思った理由を尋ねた調査では「教えるのが好きだから」「子どもが好きだから」と合わせて上位にくるのが「尊敬する教師、憧れる教師に出会ったから」という理由があります。

今年度、私が担当した1回生の「教職入門」の授業では教育者の大先輩の言葉のいくつかを紹介しました。

大村はま先生

「『伸びようという気持ちを持たない人は、子どもとは無縁の人です』

子どもは、高いものにあこがれ、自分をそこまで成長させよう、前進させようとひたむきに願っています。」（大村はま 「灯し続けることば」より）

教育とは「変わること」「変わっていくこと」だと私は考えます。教師は子どもの見方、授業づくりの考え方を決めてしまえばいけないと思っています。しかし、「変わっていくこと」は一気にというよりか、少しずつでいいと思います。また、授業では、授業前の子どもたちの考えていたことを少しずつでも変える構成をした授業を行っていく必要があります。

そういう「授業づくり」のために大学の講義や演習や実践研究でじっくりと学び、考え、討論し、深めていくことが大事ですし、学校ボランティア活動へ行って、子どもたちの様子を見たり、教職員の方々と話したりすることが大切なこととなってきます。

そうした取組の中で自分はこんな教師を目指したい、こんな教師になっていくためにこうしていこうということが見えてくるものです。

大学を卒業して、教員免許を取得して教師になる。それはゴールではありません。そこで初めて教師としてのスタートラインに立ったことになるわけです。そこから毎日変化していかないといけないのです。向上

していかないといけないのです。教師になってからが勝負です。そこで学びを止めてしまえば、子どもたちの前に立つ資格はありません。普通の先生で終わるのか、常に向上して子どもたちから憧れられる教師になるのか分かれ目になってきます。



さて、求められる教師像はもちろん不易なものもたくさんありますが、変わっていくものもあります。求められる教師像が変わると教員採用試験も変わりつつあります。

教員確保のために、教員採用試験の早期化、複数回化など採用試験の仕組みも変わってきていますが、教員採用試験は決して受かりやすくなっているとは言えません。新しい情報は早く確実に得る必要があります。

そこで「情報を早く正確に確実に得る」ために大谷大学の素晴らしい所があります。

大谷大学には教師を目指す人のために「教職支援センター」があり、次のような特色があります。

- ・アドバイザーの先生方が個別に丁寧に指導して下さったり、センターの職員の方々が懇切丁寧に相談に応じたり、対応したりして下さいます。
- ・同じ自治体を受験する学生が多いところは一人で頑張る個人戦ではなく、またライバルというよりも仲間としてチームになって準備していています。
- ・身近な先輩から教育実習の話や教員採用試験の話や直接聞く機会が教職学習会など多くあります。

普段からさまざまな相談や手続き、小論文指導・添削、面接練習等に応じてもらえますが、「教職学習会」「教員採用試験説明会」や「教員採用試験受験対策講習」などもありますのでどんどん活用して欲しいと思います。

教師という仕事の難しさやしんどさは確かにあります。しかし、日々変化していく子どもたちと共にいられる何にも代えられない喜びがあります。こんな仕事、他にありますか！

《《こんな先生になります》》

(採用内定自治体：校種)

《コミュニケーションを大切に先生に》

教育学部教育学科 松居航平（東京都：小学校）

私は、良い意味で子どもとの距離が近い先生になりたいと思っています。理想としているのは、子どもたちが困ったことがあれば、すぐに報告してくれるような関係でありたいということです。そして日常のほんのささいなことも気軽に相談してもらえるような先生になりたいです。

そのような関係性でいることができれば、子どもとのコミュニケーションの機会が自然と増えて子どもの小さな変化に気付くことができると思っています。

《自信と勇気を与え、信頼される先生に》

教育学部教育学科 松原里奈（滋賀県：小学校）

私は、子どもたちに自信や勇気を与えられる教師になりたい。これまで、子どもたちと関わる中で、子ども一人一人が輝く力や可能性を持っていると感じた。だからこそ、子どもたちをよく見て、できたことや努力を丁寧に認め、言葉にして伝えることが大切だと考える。

そうした関わりを通して、子どもたちが自分に自信を持ち、新しいことにも前向きに挑戦できるよう支えていきたい。常に笑顔を忘れず、子どもたちから信頼される教師を目指していく。

《温かく、時には厳しい教師に》

教育学部教育学科 横山恭彦（鹿児島県：小学校）

私は子どもと全力で楽しさを共有し、集中すべき場面では空気を切り替えて真剣に向き合い、温かさと厳しさを兼ね備えた教師を目指していきたい。

教師は優しいだけでなく、時には叱ることができる強さも必要だと思う。叱ることは子どもの成長を願うからこそ行うものである。子ども一人一人の気持ちに親身に寄り添い、悩みや不安に気づき、安心して相談できる存在でありたい。

《楽しい学校生活を目指す先生に》

教育学部教育学科 堀江 凜（滋賀県：小学校）

私は、子どもたちが毎日の学校生活に楽しさを感じる学級づくりをする先生を目指したい。私自身、小学生の頃に授業や学校生活が楽しくて、一度も休まずに学校に通っていた。それは、先生が楽しい授業を行い、どんな時も私たちの心に寄り添ってくださったからだと感じている。

この経験から、私も子ども一人一人の可能性を信じ、困難を抱える子どもに対しても最後まで諦めずに関わり続け、安心して楽しい学校生活が送れるような学級をつくっていききたいと思う。

《《採用試験対策法》》

(採用内定自治体：校種・教科)

《仲間とともに頑張ること》

教育学部教育学科 井関萌黄（京都市：小学校）

私が教育採用試験に合格できたのは、仲間の存在がとても大きい。大学3回生で仲間と教師塾に参加したときから、私たちの挑戦は始まった。春休みには週に2回ほど決まった曜日に集まり、筆記の対策を行った。夏休みにはほぼ毎日、模擬授業の練習をした。

ここまで頑張ることができたのは、一緒にやろうと誘ってくれて、大学が閉まっている日にも別の施設を探し、共に練習してくれた仲間のおかげである。採用試験という大変な試練であったが、大学生活の大切な心に残る思い出になった。

《教職アドバイザーの指導を受ける》

教育学部教育学科 薄田衣加（大阪府：小学校）

私が教員採用試験に合格したのは、教職アドバイザーの方のご指導のおかげだと考えます。面接と模擬授業、論作文を週1回ご指導いただいたことで、教育課題や学校でのトラブル対応などに自信をもって答えられるようになりました。

また、アドバイスだけでなく、励ましの言葉までかけてくださり、最後までモチベーションを保つことができました。教員採用試験の合格は、教職アドバイザーの方なしではできなかつたと考えます。

《計画的な準備が自信につながる》

教育学部教育学科 鋸崎透哉（京都府：小学校）

教員採用試験合格の秘訣は、早い段階から計画的に対策を始めることです。余裕をもって準備することで、知識の定着だけでなく自分の課題にも向き合うことができます。

また、模擬授業や指導案は、できるだけ多くの人に見てもらい、客観的な意見をもらうことが大切です。最初はうまくいかなくても、回数を重ねる中で改善点が見え、少しずつ自信が育っていきます。積み重ねた経験は確かな力となり、本番での落ち着きにつながります。努力した分結果がついてくるので自信を持って取り組んでください。応援しています。

《面接の質を上げること》

教育学部教育学科 岡田大輝（大阪府：小学校）

教員採用試験に合格するために取り組んだことは2つあります。1つ目は、受験自治体の教育に関する情報を集めることです。教育方針や求める人物像などを熟知することで、面接や模擬授業の対策にもつながります。

2つ目は、積極的に小学校ボランティアに参加することです。実際の教育現場では、初めて気づくことや感動することがたくさんあります。面接ではそうした経験を自分の強みにして具体的な話をすることで話の質がグッと上がります。この2つを達成して採用試験を受けてください。きっと受かります。

《苦手な面接も数をこなして克服する》

教育学部教育学科 細溝泰佑（滋賀県：小学校）

合格の秘訣は、自分の得意なことと苦手なことを把握することだと思います。自分の受ける自治体の試験内容を早めから確認し、一度問題を解いてみたり、アドバイザーの先生に面接練習をしてもらったりすることが大切です。

私の場合は面接が苦手だったので、とにかく数をこなしてアドバイスをもらい、自分なりに振り返ってみるということを繰り返し行いました。練習を積み重ねてアドバイザーの先生方に誉めてもらったことで、自分に自信が持てるようになり、試験の時に堂々と話すことができたので良かったです。

《学ボラや講座の経験が生きる》

社会学部現代社会学科 廣瀬蓮華（京都府：中学校・社会）

採用試験に向けて自分自身での勉強はもちろんですが、学生ボランティアと教師養成講座の参加は合格に近づいた要因であったと思います。この2つに参加することで生徒との関わりが増え、採用試験の面接や小論文の内容がより深いものになり、自信につながりました。

そのような経験にプラスして、支援センターのアドバイザーさんに協力していただき、面接、小論文、模擬授業の練習をしました。本番に向けて人前で堂々とできるように慣れていったことが合格につながったと思います。

《早めの対策と短時間集中学習が大事》

文学部文学科 竹内涼緒（滋賀県：中学校・国語）

私が教員採試験の勉強を本格的に始めたのは3年生の2月頃でした。過去問を中心に勉強を進め、近年の出題傾向や自分の苦手なところを見つけて繰り返し学習し、力を伸ばしました。

二次試験の面接練習はアドバイザーの方々にも何度も見ていただきました。滋賀県の教育目標や現在の教育課題についておさえ、それらに対する自分の意見や考えを具体的に話すことができるように練習しました。試験の勉強はコツコツすることが大切ですが、短期間で集中することも効果的です。自分に合った勉強方法を見つけましょう。

《試験時間を想定して学習する》

文学部文学科 飯島裕磨（京都市：中学校・国語）

私が筆記試験対策を本格的に始めたのは3回生の2月でした。時間が限られていたため過去問を解き、よく間違えている部分を重点的に勉強しました。

また実際の試験時間に合わせて問題を解くことによって、1問にかけられる時間を掴むことも大事だと思います。二次試験では私はあまり事前準備ができなかったのですが、アドバイザーの先生に指導していただくことを強くお勧めします。まだ対策をしていない人も、諦めずに今から1日30分でも頑張ってみてください。さらに京都市教師塾では、他校の教員を志す人ともコミュニティーを持つことができました。是非参加してください。みなさんの力が報われるように応援しています。

《教職を目指す後輩の皆さんへ》

（採用内定自治体：校種）

《色々なことに挑戦しよう》

教育学部教育学科 西尾遥翔（滋賀県：小学校）

教員を目指す上で、私は色々なことに挑戦することが一番大切だと考えています。興味があることや気になったことに進んで挑戦して経験を積むことで、柔軟な対応力が身に付きます。

教育実習では、これまでに経験したことを生かして授業づくりをすると、厚みが増し面白い授業をすることができました。採用試験や教育実習など不安に思うものも多々あると思いますが、それまでの積み重ねを信じて笑顔で頑張ってください。応援しています。

《楽しみながら頑張ろう》

教育学部教育学科 松川 紡（京都市：小学校）

後輩のみなさん、色々なことに挑戦してたくさんの経験をしてください。サークルや趣味、ボランティア、アルバイトなど、何かに夢中になる中での失敗や成功、努力の積み重ねが自分だけの強みになります。

そうした経験は、教員採用試験だけでなく、教師になってからもきっと生きてくると思います。不安なこともあると思いますが、その分楽しいこともたくさんあります。色々な人を頼り、息抜きもしながら頑張ってください。

卒業する4年生の皆さんへ

自らの夢を大きく膨らませて、社会に歩み出そうとしている4年生の皆さん。新年度から教員や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など、進路は様々ですが、決めた道を力強く歩んで行ってくれることを願っています。今は、希望と不安が入り混じる気持ちでしょうが、まずはこの4月からの行動すべきことをイメージしながら、一日一日を大切に過ごしてください。

（教職アドバイザーより）



参考 【教員採用試験の主な試験科目】

教員採用試験の内容は、大きくわけて筆記試験と人物試験に分類できます。試験内容は自治体ごとに異なりますが、おおむね筆記試験が一次試験に、人物試験が二次試験に行われます。

筆記試験は、教職教養、一般教養、専門教養、小論文の4種類あります。

教職教養：生徒指導や教育関連の法律など、教員として必要な「教育に関する知識や理解を問う」分野。

一般教養：社会人として必要な基礎学力を測る分野。中学校から高校までに勉強した科目から出題されることが多い。

専門教養：志望する校種・教科に関する専門的知識を測る分野。出題科目は教科によって異なる。中学校～大学入試共通テストレベルの問題が出題される。自治体にもよるが、教職教養や一般教養よりも配点が高くなる傾向がある。

小論文：教育時事や自治体の取り組みに関するテーマに対し、自分の考えや主張を論理的に説明する文章形式の試験。論理的思考力や読解力、教師としての適性などが総合的に評価される。

人物試験は、主に面接、模擬授業、実技試験の3種類です。

面接試験：自己PRや志望動機から教職員としての適性や素質、人間性などを評価・判断する人物試験。実施形態は、受験者1人による個人面接と複数人の受験者が同時に試験を受ける集団面接(討論)の2種類。

模擬授業：教師としての指導技術や専門性を評価する人物試験。実際の授業のように、一定の時間内で指定されたテーマや教科について教えることが求められる。

実技試験：校種・教科によって異なる。例えば小学校では体育・音楽実技や中高英語科では英会話など。

【今夏の教員採用試験の1次試験開始日】

2026年1月末時点で公表済みの自治体(下線の自治体はHPで未発表のため、昨年の日程で記載)

- 5月 9日 ・静岡県・静岡市・浜松市・島根県・山口県
- 5月10日 ・茨城県・長崎県
- 5月30日 ・高知県
- 6月 6日 ・鳥取県
- 6月13日 ・岐阜県・愛知県・名古屋市・三重県・京都府・京都市・大阪府・大阪市・堺市・豊能地区
・兵庫県・神戸市・奈良県・和歌山県
- 6月14日 ・北海道・札幌市・滋賀県・佐賀県・熊本県・熊本市・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県
- 6月27日 ・長野県・福井県
- 7月 4日 ・岡山県・岡山市
- 7月 5日 ・栃木県・埼玉県・さいたま市・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市
・新潟県・新潟市・山梨県・群馬県
- 7月11日 ・青森県・岩手県・秋田県・富山県・宮城県・仙台市・山形県・福島県・広島県広島市
- 7月12日 ・福岡県・福岡市・北九州市
- 7月18日 ・石川県・徳島県・愛媛県・香川県

※詳細は各自治体HPでご確認ください。

教職アドバイザーの在室時間(昼休み13:00~14:00は除く)

	月	火	水	木	金
畑 中			12:00~17:00	12:00~17:00	12:00~17:00
桂	10:30~16:00	10:30~16:00	10:30~16:00	10:30~16:00	
鈴木		12:00~17:00	12:00~17:00		12:00~17:00
藤 本	12:00~17:00	12:00~17:00	12:00~17:00		

アドバイザーは4号館1階の教職支援センター事務室で皆さんを待っています。教職に関わることであればどんな些細なことでも相談に応じます。遠慮なく訪ねてきてください!

新3年生、新4年生の皆さんへ 【募集要項を確認しましょう】

教員採用試験に向けて努力を重ねている新3年生、新4年生の皆さん。試験時期の早期化、3年生受験の広がりなど試験制度が変わりつつあります。ほとんどの自治体がインターネットで随時試験日程や募集概要等を公開しており、志願書の提出も基本的にWebで行うことになります。志望自治体のホームページを確認して、提出方法や締め切り日時、変更点等を確認することが重要です。情報収集を幅広く行い、受験に向けての土台作りを行いましょ。

次に、試験本番までの日々をどのように過ごしていくかが、大きなポイントです。残り数カ月で筆記試験対策と並行して、教職を志望する理由や目指す教師像などを明確にさせて、自治体に応じた論文や面接などの表現対策を積み重ねていきましょう。

教職支援センターは、皆さんの夢の実現のための支援を惜しみません。センターでは大量の情報と経験豊富なアドバイザーが皆さんを待っています。限られた時間を有効に使って計画的に進めていってください。

新1年生、新2年生の皆さんへ 【3年生受験の広がりと共通問題の採用の動き】

教員採用試験の倍率低下が危惧される中、全国ほとんどの自治体で3年生受験が可能となっています。また、当初は対象が小学校だけだった自治体もその校種が増えてきています。3年生受験と言ってもその内容は様々で、変更されることもあります。さらに令和10年度から自治体間で学科試験に共通問題を使う動きも出ています。試験対策に早くから準備を始めることはもちろん、現状を知るための情報を得て、今後の見通しをもつことが大切です。

【今夏の教員採用試験で3年生受験が可能な自治体】（2026年1月末時点で公表済みの自治体）

- ・北海道・札幌市・山形県・秋田県・岩手県・宮崎県・新潟県・新潟市・福島県・群馬県・栃木県・山梨県
- ・茨城県・埼玉県・さいたま市・東京都・神奈川県・横浜市・相模原市・川崎市・千葉県千葉市・岐阜県・愛知県
- ・名古屋市・富山県・石川県・福井県・三重県・滋賀県・京都府・京都市・大阪府・大阪市・堺市・豊能地区
- ・兵庫県・神戸市・奈良県・岡山市・広島県広島市・山口県・香川県・愛媛県・高知県・徳島県・大分県
- ・福岡県・北九州市・佐賀県・鹿児島県・熊本県・熊本市・長崎県 ※詳細は各自治体HPでご確認ください。

令和8年度 教員採用試験 合格人数

校種	合格名簿 登載人数	内訳（自治体・学校名・教科・科目）
公立小学校	37人	京都市5 京都府1 滋賀県9 大阪府5 大阪市1 東京都2 横浜市1 静岡県2 川崎市2 新潟県1 岐阜県1 富山県1 福井県2 広島県広島市1 福岡県1 長崎県1 鹿児島県1 (横浜市1 川崎市2は3年生段階で合格)
公立中学校	3人	京都市1 (国語科) 京都府1 (社会科) 滋賀県1 (国語科)
公立高等学校	1人	長野県1 (国語科)
私立学校	2人	小松大谷高等学校1(地理) 稚内大谷高等学校1(地理・公民)